親がキレない
子育てのすすめ

KAHOKEN

家保研　汐見稔幸
@エデュカーレ
&ぐうたら村

どうして現代の育児は、キレやすいのでしょうか？

●昔の親はキレなかった、わけではありません。

●昔の親にも怖いお母さんはいたし、頑固おやじもあちこちにいました。

●ただ、今は普通のお母さんが、ちょっとしたことでキレてしまうというところに特徴があります。

●参考：横浜でのわたくしの体験

どうしてか、原因をうまく説明してくれる説がなかなかありません

●それは、子育ては昔も今も同じようにしている、という誤解があるからです。

●子育ては時代によって、やり方が大きく変わってきています

例：江戸時代の庶民

太田素子『江戸の親子』（中公新書）のサブタイトルは？

→「父親が育児をした時代」です。

●これが伝わっていません。育児の女性化は最近の話なんです。

親が子どもを育てるとき、何を育てているのでしょうか？

●具体的に考えましょう

① ごはんを食べさせる。授乳から始まって。

② 清潔にする。病気をしないように。

③ 基本的なしつけをする。

④ 体をしっかり育てる。

⑤ 遊ぶ力、友とかかわる力、社会性などを育てる

⑥ 家事を担う力を育てる

●このうち、親ができるし、しないといけないのは？

④も⑤も、でしょうか？

少し前の子どもの昼間の様子です

東京相記輸倉株川崎営業所
立冷蔵庫
-6160F

No.4
No.5

つまり、昼間の子どもは、　大部分、親が育てたのではないのです

●そもそも、ちょっと前までの生活を想像してみてください。

●冷蔵庫も、洗濯機も、クーラーも、電子レンジも、湯沸かし器も、…何もない中で、しかもコンビニもスーパーもない。
そういう中で、三度三度の食事をつくり、洗濯を毎日し、掃除も大変、トイレの掃除も、おばあちゃんの世話も・・・

●昼間、子どもの相手をしている時間が取れますか？そう無理です。
しかし、子どもたちは子どもたちで自分たちで育ちあっていたのです。

少し前まで、子どもは今とはかなり異なる生き方・育ち方をしていたわけです

●地域で近所の子と一緒に遊ぶ→遊ぶ力、遊びの面白さ、好奇心、遊ぶスキル、仲間と交わるスキル、友情、思いやり、等々、今でいう非認知的能力を自然と身につけたのです。

●かつ、子どもは親の仕事、家事の手伝いも毎日しなければなりませんでした。そこでも種々の力を身につけました。子守りもです。

●これを私は子どもは地域という社会で上手に放牧されて育った、といっています。地域みんなで育ちを見守っていたのです。

つまり、ほんのしばらく前まで、育児を機能的に分業していたのです

●基本的信頼感、アタッチメント、清潔、基本的しつけ等は家庭で親が担いました。主として朝、夜の生活、ごはん時に。

●身体能力、さまざまな遊び等への好奇心、能動性、積極性、遊びのスキル、文化の体への刻み込み、社会性、粘り強さ、レジリエンス等は、地域社会にゆだね、親はそれを子どもに任せ、ときに見守っているだけでした。

●この分業によって、育児がうまく実現できていたのです。
しかし、子どもが外で自由に遊べなくなってしまい、その分担がうまくできなくなってしまった。それが、現代の育児なんです。昼の育てまで親が担うことに。これでは育児は大変で、とてもではないが、ゆとりをもってできません。

どうしてキレやすくなったか、これでおわかりですね

●現代の親が短気になってきた、ということではありません。

●現代の親が子どものことをよく理解できなくなってきたから、でもありません。

●現代の親が育児の面倒なところをさぼろうとし始めたから、でもありません。

●人類の歴史上はじめて、過剰な育児負担を親、特に母親が担わなければならなくなってきたからなのです。だから出生率が低下してきているのです。

じゃあ、どうすればいいのでしょう？

●まず、我々は過剰な負担を担っているのだ、ということをよく知りましょう。

●昼間から保育園に預けるのは、親の仕事をさぼることにつながっているのではありません。それが自然なのです。今は保育園こども園が放牧場なのです。ほかに放牧場があればそこでもOKです。

●そのうえで、子どももつらいのだということを知りましょう。自由に好きなように遊べる場を持っていないのですから。慢性的欲求不満状態なのです。

今の子どもは失業もしています

●子どもには、これまでたくさんの仕事がありました。

●家事、育児の手伝いが子どもの大事な仕事でした。

●子どもは手伝いが嫌いでなのではありません。過剰な負担は大変ですが、多くは自分も役立っているという喜びを伴っていたのです。

●その意味で、今の子は仕事も奪われています。慢性的失業状態なのです。

指示型から相談型育児への転換を

●今の子は、自分で自己決定して遊ぶ世界をずいぶん失ってしまいました。自己決定の世界をあまりもっていないのです。

●そこで、育児の世界では、子どもの自己決定をうんと増やしていく必要があります。でないと、自己決定の苦手な子に育ってしまいます。指示がないと動けなくなるのです。

●しかし、親としてこういうことはしっかりしてほしいという子どもへの願いはありますよね。子どもの自己決定と親の願いをどう両立させるか。

●そこで、育児の基本方策を、「指示してさせる」から、「提案して子どもの意見を聞き、相談をていねいにする」方式に切り替えることが大事になります。

●「あなたはどう思う？」という言葉を口癖にしてください。

●保育でも、おむつを替えるときも「おむつ替えたいんだけど、いい？」と聞いて、いいといってから替えるように求めています。
「〇〇したいんだけど、どう？」そのあとも粘り強く。

●原則最後は子どもに決めさせるのです。「でも、…どう思う？」です。
子どもに決定させるのです。ぜひ試みてください。

もう一つは子どもに仕事を、ですね

●家庭の中で、子どもにたとえば食事作りが好きな子に育てることは大事な課題です。

●だとすると、幼児期から、出汁は〇〇ちゃんが作って、あら上手、という家庭習慣を！これが我が家の小さな文化です、というものを。

●あとは、お母さんが経験交流をする場、ワイガヤをする場を持ってください。勇気を出して。

以上